

IDB カーペットレポート

VOL-174

<2018年11月15日発行>

ジャパンテックス開幕直前特集号

日本最大級の国際インテリア見本市「第37回ジャパンテックス2018」(主催:一般社団法人日本インテリアファブリックス協会、永嶋元博会長)が11月20日(火曜日)、東京ビッグサイト東7ホールで開幕する(22日、木曜日まで)。開場時間は3日間とも10時から17時まで。

今号は、このジャパンテックスの直前号として、主要出展企業や日本カーペット工業組合の展示予定内容、会場での企画展示、注目のセミナーなどを紹介する。

サンゲツや川島織物セルコンが発売した新タイルカーペット、ナイロンファイバーをめぐる業界動向、設備導入情報などについては次号にて詳報する予定。

※9-11頁に決算、最近のトピックス、人事、事務所移転、IDBコラムを掲載しています。

ジャパンテックス2018 11月20日に開幕へ 業界一丸となって インテリアの素晴らしさPR

ジャパンテックスは11月20日(火)の午前9時、高円宮妃殿下ご臨席のもと、東7ホール・ステージAにおいて開会式が執り行われる。インテリア関連企業、国内外の277社/団体が出展予定で、開催テーマ「ジャパンスタイル×インテリアビューティー〜プロフェッショナルたちの祭典」のもと、この先のインテリアデザインをリードする各種商材・サービスが紹介される。

カーペットも魅せます 世界初商品も

ジャパンテックスの大きな魅力は、上質・高機能のカーテンやカーペットをまとめて鑑賞できること。今回、その目玉企画となるのが国内有力インテリアファブリックスメーカー7社によるファブリックの競演「ジャパン・プレミアム・ブランド・ファブリックコレクション」。東リ、住江織物、シンコールをはじめ、2年ぶりに出展者リストに名を連ねるサンゲツや川島織物セルコン、久しぶりのアスワンやリカラが一堂に会し、それぞれ自慢のカーテン商材を華麗にディスプレイ。東リは「リヨン織物美術館シリーズ」、住江織物は「モードエス」などを展示する。

その隣にブースを構えるのが日本カーペット工業組合。有志21社による共同出展により、メイド・イン・ジャパンのカーペットワールドを展開する。次世代型CYPタフトマシンによるカーペットが世界初登場するほか、特殊なエンボス加工や染色技術を駆使したもの、市場が拡大しつつある人工芝、変わらぬ価値を刻み続けるウ

